

# 鏡山へんろ道の整備、保存基本方針 2017.12.14

## 鏡山へんろ道保存会

### ■整備、保存の目的

残存する鏡山の貴重な自然林を保護、活用し森林浴トレッキング(ウォーキング)を推進することで市民、県民、観光客の保健、休養、教化に資することを目的とし、鏡山の活性化、強いては唐津市の活性化に努める。

### ■これまでのへんろ道の整備状況と活動について

平成27年1月から6月まで石仏の所在確認を行う現地調査を実施し、その結果は同年9月に報告書「鏡山遍路考」で報告した。同年度には鏡山へんろ同行会(現、鏡山へんろ道保存会)を結成し、唐津市のがんばる地域応援補助金に応募、事業採択され、掲示板の設置、へんろ道(鏡山東側に残存していたへんろ道で以降、昭和のへんろみちと呼ぶ)の整備等を行った。平成28年度には同補助金で一部石仏の移動、石仏表示板の設置、パンフレットの作成を行った。この間、毎月第2日曜日には「鏡山へんろトレッキング」としてへんろ道のボランティアガイドを実施している。

### ■石仏の状況について

平成27年の現地調査とその後の2体の石仏発見の結果および新規の石仏設置(寄贈)により石仏88体中、台座と本体がセットでそろっているものは72体、台座のみが5基、本体のみが3基、不明が8体であることがわかった。

### ■へんろ道の整備計画について

現在、昭和のへんろ道の石仏は第5番から52番まで設置が完了している。今後第1番から第4番までの石仏を第5番と繋げ、「昭和のへんろ道」と称して、整備を進めていくこととする。なお、道の整備についてはコンクリート舗装は絶対に避けることとし、土の道、石畳道等自然景観に配慮した道にする。

第53番から第88番までの道は「平成のへんろ道」と称して頂上東側にある自然探勝路を活用し、そこに石仏が設置できるように関係者と協議しながら活動をする。

昭和のへんろ道はできるだけ、へんろ道開設当初(昭和2年から26年頃)の状況を保つことに努めることとし、「平成のへんろ道」については、平坦な道の特徴を生かし、鏡山を訪れる観光客が楽しめるへんろ道の開発に努めることとする。また、平成のへんろ道は春の唐津2 days ウォークのコースとしても利用されていることから、早期に石仏設置が完了するように努める。

### ■石仏の移動、整備について

昭和のへんろ道以外の石仏は常照院を中心に一般歩道や自然探勝路、その他に散在しているが、関係者の同意を取って平成のへんろ道への移動を行うこととし、同意が得られない石仏については根気強く関係者への説得を続け理解に努めることとする。また、昭和のへんろ道の重複している石仏については、できるだけ早い時期に所定の位置に戻すように努める。また不足している石仏、台座等については、寄付や他所からの入手等により補完し88体が揃うよう努める。

### ■鏡山の開発方向について

現在、鏡山は西側を中心に虹ノ松原、唐津湾の自然景観を売りにしているが、東側には鏡山神社、愛染院奥の院、へんろ道等の歴史、文化遺産があることから、東側を歴史・文化ゾーンとして整備、開発していくことを佐賀県、唐津市の関係機関に提案していく。既存の自然景観ゾーンと新たな歴史文化ゾーンとを組み合わせることにより新たな鏡山の魅力を引き出し、唐津観光の活性化に努める。